

松江保健生協 2022 年度のまとめ（案）

（はじめに）

2022年度は新型コロナウイルス感染症が過去最大の感染者数となり事業や運動に大きく影響した1年となりました。事業所ではクラスター発生や職員の感染拡大により、患者、利用者の減少、支部や班の活動自粛を余儀なくされました。このような中でも事業所では陽性患者の入院受け入れやワクチン接種など地域や行政の要求に応える活動をすすめました。

組合員の活動では感染を発生させることなく、健康づくり、つながりづくりをすすめ昨年を上回る成果を出すことができました。

長引くコロナ禍の中で、保健生協の事業と組合員活動は「地域まるごと健康づくり」に大きく貢献した年度となりました。

1、健康づくり、つながりづくり、仲間づくり

- ①コロナ禍でも感染対策を行い、支部を中心に取り組みが前進しました。支部企画を「70周年企画」と位置づけ、グラウンドゴルフは14支部で404人が参加しました。支部企画を機にグラウンドゴルフ班会も定着し203回1,155人の参加に広がりました。「寄せ植え」も14支部615人の参加、「ウォーキング・登山」「お出かけ交流会」なども実施され、地域の健康づくり、つながりづくりに貢献しました。
- ②認知症予防の取り組みは支部、班会の認知症学習会は5回30人の参加でしたが、班会やサロンの開催とあわせた認知症予防活動が定着しました。
- ③第5回松江保健生協「すこしおレシピコンテスト」を開催し、14人から19レシピの応募があり4件が入賞しました。また、「すこしおレシピ」集を発行し、二次元コードからもレシピを見ることができるよう活用しました。医療福祉生協連の全国コンテストにも応募し3年連続入選（最優秀賞、佳作）を果たしました。
- ④健康チャレンジは過去最高の11,154人、仲間でチャレンジも843グループ、3,178人が参加し、14班の復活と新班12班の誕生につながりました。

2. 居場所づくり、支え合い、居心地よくらせるまちづくり

- ①サロンは、あらたに2支部で取り組まれ15支部、15サロンとなりました。延べ51回開催で888人の参加となりました。「スワッグづくり」「太極拳」「健康麻雀」など開催内容も多彩で毎月開催を計画しているサロンが増えています。

- ②フードバンクしまね「あったか元気便」は、対象学校が17校に拡大し、延べ1,737世帯、ご家族延べ6,157人（昨年1,405世帯、ご家族4,940人）に23トン（昨年15トン）の食料品をお届けしました。ボランティア参加も増え1,025人（昨年866人）と広がりました。なないろ食堂は5回開催、50人の子どもたちが参加、軽食持ち帰り付き寺子屋（学習支援）は12回開催、68人の参加となりました。お弁当のテイクアウトの企画は1回実施しています。
- ③「おたがいさま支えあい基金」は、96万円の募金のご協力を頂き2017年からの累計は781万円となりました。「無料低額診療事業」への支援には83万円、「その人らしくを支える支援」には52件、13万円を支援しました。

3、第2期「あったかまちづくりビジョン」（案）（2022～2026）検討、組織と事業を支える活動

- ①医療事業構想、介護事業構想、組織課題、経営課題の4つの分野から答申がだされ、第2期「あったかまちづくりビジョン」（案）ダイジェスト版が完成しました。10月から12月を検討推進月間とし、40支部、15事業所・職場から感想が寄せられました。
- ②事業所ではクラスター発生や職員の感染拡大があり事業収益は大きく減収しました。一方で、陽性患者さんの入院、入所受け入れ、発熱外来、ワクチン接種など地域の要求に応えながら補助金も獲得し、経営改善を行いました。経常剰余は2億1,774万円となり年度予算を超過しました（予算1億3,875万円）。組合員増やしでは934人（目標1,500人）、出資金増やしで1億9,690万円（目標2億5千万円）となりました。

4、生協の役割と社会的価値、平和で公正な社会づくり

- ①SDGsの学習と実践がすすみました。支部、班会での「SDGsって何だろう」学習会や本庄支部の海岸清掃、乃木第一支部合同班会や城北支部班会のエコバッグづくり、乃木第一支部、古志原はっぴいサロン、八雲西支部班会のフードバンク支援募金活動など、支部、班会でSDGsの実践が進みました。
- ②平和・憲法問題、社会保障充実などの取り組みは、「国の制度として18歳までの医療費窓口負担を無料に」署名459筆、「保険で良い歯科医療を」署名277筆が集まりました。第34回「戦争体験を語り継ぐ集い」は入場制限を行い110人の参加者で開催されました。